

上田市教育委員会 8 月定例会会議録

1 日 時

平成30年8月23日（木） 午後3時10分から午後3時47分まで

2 場 所

上田駅前ビルパレオ5階 上田市教育委員会 第一会議室

3 出席者

○ 委 員

教 育 長	峯村 秀則
教育長職務代理者	北沢 秀雄
委 員	平田 利江子
委 員	横関 妙子
委 員	綿谷 憲一

○ 説 明 員

中村教育次長、池田教育参事、石井教育総務課長、高木学校教育課長、小林生涯学習・文化財課長、唐澤人権同和教育政策幹、池田スポーツ推進課長、青木丸子地域教育事務所長、宮崎真田地域教育事務所長、津久井武石地域教育事務所所長補佐、深町丸子学校給食センター所長、竜野中央公民館長、山口上野が丘公民館長、飯島上田情報ライブラリー館長、

1 あいさつ

2 協議事項

(1) 小学校教科用図書(道徳以外)、中学校教科書(道徳)の採択について(学校教育課)

○資料1により高木学校教育課長説明(要旨)

小学校の教科用図書について、昨年度は道徳教科を加えていただいた。今年度は道徳を除く旧教科11の教科用図書を採択していただくことになる。採択にあたっては、上小地区の教育長と教育長職務代理者及び小中学校長の代表で構成される上小地区小中学校教科用図書採択研究協議会から、7月20日開催の協議会における選定結果についての報告が入っているので、ここでは報告どおりの教科用図書採択の説明をさせていただく。はじめに、今回の小学校図書採択に関して特徴的なことを申し上げたい。資料1の表面に記載のとおり、平成32年度から新学習指導要領が実施されることから、今回採択される教科用図書は平成31年度1年間のみ使用となること。また、平成32年度に新たに検定を受けた教科用図書がないことから、学校で使用している教科用図書を引き続き使用するか否かの判断をすることである。

文部科学省からは、4年間の使用実績を踏まえつつ、平成26年度採択における調査・研究の内容等を活用することを認める説明があったので、協議会では前回の調査研究の結果や4年間の使用実績を踏まえ、3人の現場の先生で構成される調査研究委員会での研究や教科用図書の選定作業をしていただいた。前回の協議会においては、11の教科用図書それぞれについて研究委員会による出版社ごとの比較の結果と選定の理由、実際に使用した感想を含めて、それぞれ3、4点ほど挙げて説明していただいた。調査委員会で選定した全ての教科用図書は、市内の小学校で使用しているもので、出席した委員からも特に反対意見はなかった。

続いて中学校の道徳の教科書については、資料1の2枚目に記載されており、光村図書出版(株)を選定している選定経過等について簡単に説明をさせていただく。中学校の道徳教科書採択は今回初めてであり、平成29年度の文部科学省の検定をとった教科書8社の中から、1社を選定する作業について、中学校の教頭及び教諭のうち調査研究員5名を組織し調査・研究を行った。調査研究委員の先生方は、県から示された調査・研究13の観点から比較をしていただき、教師が授業を行う際に扱いやすいか、考え、議論する状況にふさわしいかどうか。いじめなどの対応について、他にも若い先生が教えやすいものはどれかなどの検討や複数の教科書に取り上げられている教材、例えば教科書全8社に取り上げられている4作品について比較検討を行った。道徳の目標である物事を多面的、多角的に考える部分を大切に考えて判断をしていただいたことが調査・研究のポイントである。

以上の観点から、8社を総合的に比較した結果、光村図書出版(株)を選定した。その理由として①多面的、多角的に見方を変える観点を捉えることができる教科書であること。②発達段階に合わせて道徳的価値の自覚を深められる多様な教材で構成されていること。③小学生から成長した今の自分の考えを改めて考え、深い学びにつながること。④教材の訂正・変更や差し替えを行うことができる配慮がなされているか。⑤生徒が集中して学習に取り組めるように視覚的な配慮がなされている。以上の点が、判断をさせていただいた理由である。調査研究委員会から以上の報告をいただき、協議会において全体的にバランスがよく、質問の質が高く、より深い授業を行うことができるようさまざまな工夫がされているところから光村図書出版(株)を選定させていただいた。この選定結果については適当と認められるため、上田市教育委員会として採択したいと考えるのでご審議をお願いしたい。なお、本日の結果を協議会へ報告し、上小地区内の各教育委員会から報告が揃った時点で結果を県に報告をしたいと思う。その後、選定理由・調査結果等を含め、その結果を市のホームページで公表していく。

峯村教育長

7月20日の採択研究協議会は、教育長職務代理の北沢委員と私が出席した。その採択の理由等を2人で聞いてきた。何か補足や感想があれば願いたい。

北沢委員

私から補足説明をさせていただく。調査研究委員会では、委員長を中心に教科書採択に必要な資料を作成していただいた。また丁寧に説明していただきありがたかった。適切な過程を踏み選定された教科書だと思う。重く受け止めたい。

峯村教育長

今、説明があったとおりである。2枚目の小学校、中学校を除く採択にて、このような会社を選んだ教科書採択ということによろしいか。

○全委員 了承

3 報告事項

(1) 「文化財 de 文化祭 in 常楽寺」の開催について（生涯学習・文化財課）

○資料2により小林生涯学習・文化財課長説明（要旨）

文化財の活用モデルとして提案していくことを目的として、「文化財 de 文化祭」を平成22年から行って今年で4年目となる。今年度は上田市指定文化財の常楽寺本堂で開催する。茅葺き屋根西面を葺替工事することから、この葺き替え工事の見学会と「尺八・ピアノ Duo 岩田卓也&MAKI」の演奏会を開催する。事業の概要は、日時が平成30年9月8日(土)。見学会は13時から、演奏会が15時から、常楽寺の本堂を会場に行う。その内容については、見学会は葺き替え現場の見学と現場作業員からの説明があり、演奏会については、尺八・ピアノ Duo 岩田卓也&MAKIで演奏を行う。定員は100名、参加料は無料、広報うえだや市ホームページに掲載して募集をしたが、応募期限が来たところで現在35名の応募しかない。メール等で募集期間を8月31日まで延長しているので、知り合い等に声をかけてお越しいただきたい。この「文化財 de 文化祭」を年間2回開催している。2回目については11月25日に旧宣教師館で「旧宣教師館 de オペラ」を予定している。ぜひご参加いただきたい。

○質疑

横関委員

今までの実績を教えてほしい。

小林生涯学習・文化財課長

第1回目は平成27年度に、笠原工業㈱の常田館でジャズコンサート「Jazz Night」を開催し、250人の入場者数であった。2回目は信州大学繊維学部講堂にて「ストリングラフィシルクコンサート」を行い200人程の参加があった。28年度は丸子の依水館で演劇公演と文化財トーク、ワークショップなどが行われ、会場が狭いことから制限を設けて40名の参加であった。他にも南インドの古典舞踊の夕べを生島足島神社で開催し、100名の参加があった。また昨年は旧宣教師館で旧宣教師館の群響メンバーによるアンサンブルコンサートを定員各25名、午前と午後の2回に分けて行った。

横関委員

県外の有名な方々がいらっしゃるが、上田市でも活躍している方々がいると思う。

小林生涯学習・文化財課長

昨年のアンサンブルコンサートは群響メンバーの1人が上田市出身である。また、その前のジャズコンサートについてもなるべく上田の方にと声掛けしている。

横関委員

上田の人材を使うことは大事なことだと思う。文化財に限らず文化祭はどこでも行えると思う。サントミュージゼがあり、芸術の街としても例えば、まちなかにストリートピアノを置く等で生涯学習としても音楽等を通じたまちづくりをお願いしたい。

小林生涯学習・文化財課長

今回は文化財をいかに活用するかがテーマなので、上田市主催の文化財を市民の方に知っていただく機会である。

平田委員

毎回楽しみな事業である。葺き替えは今回しか見られないとても貴重な体験であるが、応募人数が少ないことは残念に思う。やはり広報とホームページでは周知される人数に限られてしまうのではないか。

小林生涯学習・文化財課長

人数が増えるよう別所観光協会の方をお願いをしている。

平田委員

可能であれば中学生、高校生、大学生などへの周知、また地元の方にも素晴らしい経験をしていただきたい。今後も発信方法の工夫を考えていただければと思う。

○全委員 了承

(2) 5大学リレー講座について（生涯学習・文化財課）

○資料3により小林生涯学習・文化財課長説明（要旨）

5大学リレー講座は、大学の最先端の学びを市民の生活や地域づくりに役立ててもらうため、平成21年から開催して今年は10回目の講座となる。運営（司会進行等）には、生涯学習インストラクター等の資格取得者を活用するとともに、全講座に出席した方（テレビ受講者も含む。）には修了証を発行するなど、新たな生涯学習環境の拡充を図ることを目的とする。今年は筑波大学の山岳科学センター菅平高原実験所も参加し、5大学リレー講座を開催することになった。実施内容については、資料3記載のとおり9月29日の信州大学繊維学部を1回目として、11月10日の長野大学まで全5回、各大学を会場に行う。各大学の講師については資料記載のとおりである。今年は10回目なので特別なことを各大学で用意をしている。ぜひお越しいただきたい。定員に関しては人数をとくに設けていないが、筑波大学の山岳科学センター菅平高原実験所のみ定員35名先着順としている。毎年各会場80人前後の受講者数があり、その中でも50%の方がリピーターになっている。周知方法については、広報うえだ9月1日号に掲載、ホームページ、ポスターによるさらに多くの方が参加いただけるよう周知を行っている。

峯村教育長

ここで意見質問をお願いしたい。

○質疑

横関委員

全講座に出席した方でテレビ受講者を含むとはどういうことか。

小林生涯学習・文化財課長

上田ケーブルビジョン等を活用していただき、全てケーブルビジョンで流していただく。全5回受講した方、また参加できなかった場合もこのテレビを見ていただき、感想文を出していただいた方にも修了証を発行する。

横関委員

ケーブルテレビを見られない人は何とかならないか。

小林生涯学習・文化財課長

検討したいと思う。

○全委員 了承

(3) 第13回人権を考える市民のつどい開催について(生涯学習・文化財課)

○資料4により唐澤人権同和教育政策幹説明(要旨)

この催しは上田市全域を対象に今年で13回目を迎える。主としてこの市民のつどいをきっかけとして、市民一人ひとりの人権尊重の意識の高揚を図ることを目的に開催するものである。開催日時は10月3日(水)13時30分よりサントミュージアム大ホールにて開催する。今回の講師は現在東京大学名誉教授、姜尚中さんをお招きして演題「共生・共苦・共楽の社会～私の体験から～」の講演をしていただく。詳細については別紙のパンフレットをご覧ください。

○質疑

北沢委員

生涯学習・文化財課の事業の「文化財 de 文化祭」のネーミングのように、個人的に気に入っているものが多い。例えば、「上野が丘わいわい塾」「ともしび駅伝大会」「行列のできるコミュニティスクール相談所」等。逆に「5大学リレー講座『未来学科』」については、何回も続くものなので、ネーミングを工夫していただきたい。ほか、「人権を考える市民のつどい」の講師にお招きしている人選はどのようにしているのか。

唐澤人権同和教育政策幹

講師の人選に関しては、何人か事務局の方で4名ぐらいの候補を挙げ、人権啓発推進委員会が共催という形で決定する。旬の人で人権をしっかりと語っていただけの方をお願いしている。

○全委員 了承

(4) 平成30年度夏休み上野が丘わいわい塾実績報告について(上野が丘公民館)

○資料5により山口上野が丘公民館長説明(要旨)

7月の定例会にて、夏休み上野が丘わいわい塾の説明をさせていただきました。詳細については配付した資料5のとおりである。7年目を迎え、今年は「大昔に想いをはせる」をメインテーマに設け、内容も工作やお菓子作り、運動を組み合わせ、3日目には市民の森で野外活動を行い、今年度も充実したものになった。4日間、小学生の参加者が96人、地域ボランティアが56人、また、今年度は中学生、高校生、大学生の学生ボランティアが55人、小学生の参加者以上に地域の方々が手厚い体制で子どもたちの活動を見守ることができた。今後は、7回行ってきて見えてきた課題を大事にしながら、今後ますます充実していきたいと考えている。上野が丘公民館と関係のある神科小学校と豊殿小学校、東小学校、北小学校をはじめ、多くの関係機関の皆さんのご協力、ご支援を賜った。なお、9月27日(木)18時から30年度のわいわい塾の活動報告を兼ねて事業報告会を上田文化会館にて開催する予定である。

峯村教育長

わいわい塾について、意見質問をお願いしたい。

○質疑

横関委員

わいわい塾の準備に伺ったときだが、とても居心地の良い場所で暖かく迎えていただき、雰囲気づくりが素晴らしかった。その中でも決まりはしっかりと守らせ、社会性を養い、保護者の協力や承諾、理解もいただき、すべてが網羅され活動された上田市が誇れる事業だと思う。参加した小学生の子どもたちが先輩を見て学び見習っていく理想的な活動である。

平田委員

年々学生ボランティアが増えていく、その点が何よりも素晴らしいことだと思う。7回行ってきて見えてきた課題とは、差支えなければお聞きしたい。

山口上野が丘公民館長

公民館の方で課題と思っていることが3点ほどある。1つ目は昨年ぐらいから、この4日間のプログラムに参加するには、保護者の協力があって4日間連続となると敷居の高い講座となっている。来たいけれども来られない子どもたちも見受けられ、わいわい塾開催中に公民館を羨ましそうに様子を見に来る子どもたちもいた。これについては公民館でもどういうことができるのだろうかと対応を考えた。今年から、わいわい塾が終わった後に学習室を一般開放して夏休みの勉強を自由研究の場に使ってもらえるよう始めた。2つ目は7回行ったことで、当時7年前にわいわい塾と一緒に地域の方と始めたボランティアの皆さんたちが7歳年を重ねた。ボランティアの裾を広げていくことも大きな課題になっていることを考える。3つ目は100人という規模を4日間開催して、ボランティアもその数以上200人近い体制で動くことは、

この規模も安全でこの事業を続けていくためにも改めてこの部分を考えていく必要がある。以上が公民館の感じている課題である。

○全委員 了承

(5) 武石ともしび博物館開館30周年記念事業について(武石地域教育事務所)

○資料6により津久井武石地域教育事務所長補佐説明(要旨)

武石ともしび博物館が来年度開館30周年を迎え、その記念事業として「鬼平犯科帳にみる江戸の灯火器展」を12月24日まで開催する。代表作の鬼平犯科帳に描かれた江戸中期から後期にかかる灯火器を展示し、小説の世界を灯火という視点から再現し、併せて冬物で使われた灯火器や浮世版画など描かれた実物を展示している。市内の池波正太郎真田太平館にて鬼平犯科帳劇画展を開催中で、武石ともしび博物館と池波正太郎真田太平館、相互に連携してどちらか一方の入館券を提示することで、もう一方の入館券を割引きにすることを実施している。

○全委員 了承

(6) 第29回ともしびの里駅伝大会について(武石地域教育事務所)

○資料7により津久井武石地域教育事務所長補佐説明(要旨)

開催日時は10月28日(日)10時30分スタートし、全7区間25.1kmである。昨年度との変更について、来年度は30回を迎えることでゲスト招待をする予定である。また、小雨決行のところを雨天決行となり、参加料を1チーム7,000円から8,000円に変更し、1,000円の値上げとなった。ただし、9月16日までの1次募集については1,000円の割引をさせていただいている。また、今回インターネットからの申し込みが可能となり、その他、郵送、郵便振替等の申し込みも行っている。

○全委員 了承

峯村教育長

報告事項(7) 寄付の状況、(8) 行事共催申請状況について、(9) スポーツ関係教育長表敬訪について、(10) 公民館だよりについて説明を申し上げないが、資料の内容を見ていただき何かあれば質問、意見をお願いしたい。

(8) 行事共催等申請状況について(学校教育課、生涯学習・文化財課、スポーツ推進課)

○資料9-1 9-2 9-3 (説明なし)

(9) スポーツ関係教育長表敬訪問について(スポーツ推進課)

○資料10 (説明なし)

(10) 公民館だより (各公民館) (説明なし)

○資料11 (説明なし)

平田委員

学校教育関係寄附について、資料8の3・シナノケンシ㈱のPREXTALKの用途などを教えていただきたい。

高木学校教育課長

特別支援学級に配備し、それに合ったソフトを組み合わせて学習に使っていただきたい。

平田委員

子ども達のために、先生方により効果的に使っていただくようお願いしたい。

峯村教育長

文科省でもデジタル教材を活用していくよう方針を立てている。他にご意見はないか。

平田委員

資料9-1行事共催等申請状況について、上田市教育委員会として後援するものと協賛するものがあるが、38番侍学園の申請が昨年は後援であったのが今年は協賛になっている。後援と協賛の違いや基準等誰の判断によって決まるのかお伺いしたい。

高木学校教育課長

多くの違いはないと思う。調べてお伝えしたい。

平田委員

次回までにどんな形で教育委員会が後援をするのか、協賛をするのか、基準があるのか教えていただきたい。

中村教育次長

上田市の後援、共催、協賛があり、市独自の業法がある。主催に賛同するものが協賛、相手側が後援、共催、協賛で申請してくる。その中の共催というのは行政が一緒になって行うことなので、当然こちらの判断が入る。後援か協賛については、申請者の方で後援、協賛と申請してくるので、それぞれの基準に合っていれば認めることとなる。詳しいことについては後日お伝えしたいと思う。

○全委員 了承

4 その他

(1)平成30年度地域とともにある学校づくり研修会「行列ができる“コミュニティスクール”相談所」開設について(生涯学習・文化財課)

○資料3により小林生涯学習・文化財課長説明(要旨)

今回、コミュニティスクールを進めている中の研修会が今年度の研修会となる。今回、文部科学省コミュニティスクール推進員(CSマイスター)・兵庫教育大学教職大学院の小西哲也教授をお招きして、社会総がかりで子どもを育てる仕組みづくりのヒントを学ぶ機会とする。日時等については9月1日(土)9時から12時30分まで、丸子中学校が会場となる。内容については、第1部は上田小県PTA連合会主催の事業の講演会で、どなたでもご参加できる講演会となっている。第2部については10時55分~12時25分まで、上田市教育委員会主催で講演とリアル熟議の中で講師の小西先生にいろいろとご相談いただきたい。参加対象者はPTA、学校評議員、学校運営委員会関係者、コミュニティスクール関係者など定員50名で開催する。

○質疑

峯村教育長

この研修会「行列ができる」は誰がネーミングしたのか。

小林生涯学習・文化財課長

生涯学習・文化財課職員(伴コーディネーター)が付けたネーミングである。

綿谷委員

講師を呼ぶのにどのくらいお金がかかるのか。

小林生涯学習・文化財課長

国の推進なので講師の費用については国の負担となっている。上田市の負担はないが、国の方で誰でもいいと申し込むと誰が来るのか分からない。今回は小西先生をぜひとお願いしたので講師については無料だが旅費については呼ぶ方で負担することになっている。

綿谷委員

お金がかかるのは旅費の負担のことなのか。

小林生涯学習・文化財課長

そうである。

峯村教育長

それでは、以上で本日の定例会を終了したいと思うが、2人の学生さんがインターシップで同席いただいている。ひと言お願いしたい。

神原拓未さん(インターシップ)

長野大学よりインターシップで学校教育課へ実務体験をさせていただいている。教育委員会の定例会の場に同席させていただき、学校の裏側や教科書の制定など普段では来ることができない場所で特別な体験をさせていただいた。教職を目指している立場なのでより励んでいきたいと思う。

塚田伊呂波さん（インターシップ）

日本大学国際関係学部より、インターシップで学校教育課へ実務体験をさせていただいている。本日はこの会に同席させていただき、学校教育課以外の他の課の実務や上田市のイベントについて皆さんの意見や質問を聞くことができ大変貴重な体験をさせていただいた。

○全委員 了承

閉会

教育委員会会議規則第 21 条の規定により署名する。
